



◀竹炭破砕機で粉末竹炭をつくる作業所の職員

1月17日から粉末竹炭を無料配布!

竹の里「多久作業所」

社会福祉法人竹の里「多久作業所」（陣内和博理事長）は12月6日、竹炭破砕機を購入し、粉末竹炭など新たな製品の開発を始めました。

竹炭破砕機は、社会福祉法人丸紅基金（東京）から寄付を受け購入したものです。丸紅基金は、毎年1億円を全国の福祉団体に寄付されており、11月24日竹の里へ竹炭破砕機の購入費用として176万円の寄付がありました。

陣内理事長は、「多久作業所で製造販売している竹炭を竹炭破砕機で粉末化し、土壌改良などとして販売します。植物の育成や牛の下痢止めにも効用があり販売拡大に期待をしたい」と話されました。

販売に先駆けて1月17日から市民のみなさんに無料配布が行われます。詳しくは、竹の里「多久作業所」までお尋ねください。

竹の里「多久作業所」 ☎76-5026  
 （東多久町大字別府4319-3）  
 配布数量 100名限定（一人当り 10kg）  
 配布月日 1月17日(月) 午前8時30分から

おいしくお餅ができました!

南部小児童が地域の人々とふれあいを楽しむ

南部っ子ふれあいまつりが12月5日、南部小で行われました。

1・2年生は、老人クラブと「昔遊びやお店屋さん」、3・4年生は、保護者と「餅つき体験」、5・6年生は、老人クラブの指導で「しめ縄づくり」を行いました。

この催しは、地域や家族とのふれあいで守られて生活していることを実感し、温かな人々とともにある南多久町を愛する心を育てることが目的です。

おばあちゃんやお母さんに教えてもらいながら餅を丸める作業をしていた児童は「ちぎったところを下にしてきれいに形を作るのが難しいけど、おもちふわふわして温かい」と悪戦苦闘しながらも、親子や地域の人々とのふれあいを楽しんでいました。

作った餅は、約1600個。この後、全校生徒や保護者、老人クラブのみなさんなどに配られました。



▲お父さんたちの指導で餅をつく3・4年生

## 年末年始の交通安全願って冬の交通安全県民運動

12/15



高齢者の交通事故防止、飲酒運転の根絶、追突事故の防止を目指して、12月15日から24日まで冬の交通安全県民運動が展開されました。平成22年は県内で高齢者の交通死亡事故が増え、市内でも交通死亡事故が発生しました。

運動の初日は、交通安全指導員や交通安全母の会らが、西多久町の幡船の里で女山大根を配り、ドライバーに交通安全を呼びかけました。

## 山犬原地区 米の収穫祭

12/4



山犬原生産組合（野口義光生産組合長）は、山犬原子どもクラブの子どもたちを招待して、米の収穫祭を行いました。「田植え、稲刈りの農業を体験した子どもたちに、収穫の感謝と喜びを味わって」と催されたものです。

22年度産地元採れたてのさがびより、夢しずく、ヒノヒカリ、コシヒカリの4品種のおにぎりの試食や品種当てクイズ、地元産の野菜を使ったバーベキュー会で楽しみました。